



はばたき TEA TIME



今月は「援助要請」について紹介します。自力では、うまくいかない時に他者に助けを求めることを「援助要請行動」といいます。援助要請をうまく出せないことの原因や援助要請を出しやすくするためのポイントを紹介します。援助要請は、はばたきの支援、指導でも常に大事にしています。お子さんと関わる中で参考にしてみてください♪



「イヤだ」「無理!」「どうせ・・・」の背景

「イヤだ!」「無理!」と行動を拒否したり、「どうせ・・・」と実行に移すことをためらったりする子供には、援助要請行動をしようとする意欲の乏しさがしばしば見受けられることがあります。また、騒いだり、逃げたり、物や人に当たったりするような行動を取ることもうまくできそうにないことを隠したりごまかしたりすることもあります。表面的な行動や態度だけにとらわれずに「助けを求めることができず、困っている」という内面を理解してあげることが大切です

援助要請を出すことは大きな壁??



自分自身で物事を解決する力はとても大切です。援助要請は、問題解決の第一歩であり、自立や社会参加において非常に大きな役割を果たす行動の一つです。ところが、それを簡単にできない事情もあります。援助の要請は、「心理的な損失」を伴うことがあります。心理的な損失とは、「依頼を求めた相手から拒絶されたらどうしよう」や「自分の能力不足を露呈したくない」というプライド、「自分でなしえなければならない」という理想（自力達成）などが挙げられます。

ポイント

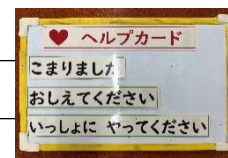
援助要請を出しやすくするためのポイント

援助要請をみんなの前ですることはとても勇気がいることです。そこで援助要請を出しやすくするためのポイントを3点ご紹介します♪参考にしてみてください♪

①援助要請が必要な場面を作る

他者から援助を求められる場面を通して、体験を積み重ねることが大切です。大人から「一緒にこれ持ってもらえる?」や「これを手伝ってもらえるかな?」などと、意図的に援助要請を出します。ヘルプに応じてもらった後には「ありがとう、助かった」「頼りになる」などと声を掛けることで自己有用感の向上にも繋がります。

②困っていること・してほしいことをカードにする



言葉で援助要請を出すことが難しいお子さんには、困っていることやしてほしいことをカードにすることも有効です。はばたきでは、各教室に「♡ヘルプカード♡」を作成し、いつでも援助要請を出しやすくするための工夫をしています。(上記の写真は、実際にはばたきで使用しているヘルプカードです)

③援助要請を出すことができた時には、すぐに褒める

援助要請を出すことができた時には、その場ですぐに褒めてあげることが大切です。すぐに褒めてあげることで自信をもてるようになります。はばたきでは、すぐに言葉で褒めるだけでなく、児童の実態に応じて、大いに褒めることや花丸カード、グーサインなどのジェスチャーを交えながら褒めています。



参考文献：みつむら web magazine(光村図書)

援助要請と被援助志向性の心理学 (金子書房)